

総合的な探究の時間

1 総合的な探究の時間における評価

(1) 評価の観点についての留意事項

ア 総合的な探究の時間の「評価の観点」

学習指導要領では、各教科等と同様に、総合的な探究の時間の目標や内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理している。

総合的な探究の時間においては、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定する。その際、学習指導要領に示された次について考慮する必要がある。

【各学校において定める目標】

・各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な探究の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

総合的な探究の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すとは、各学校における教育目標を踏まえて、各学校において定める目標の中に、この時間を通して育成を目指す資質・能力を、三つの柱に即して具体的に示すということである。

【各学校において定める内容】

・探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること。

ア 知識及び技能については、他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。

イ 思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析・まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

ウ 学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

このように、各学校において定める目標と内容には、三つの柱に沿った資質・能力が明示されることになる。

総合的な探究の時間においては、他教科等と同様に、指導と評価の一体化に向けて、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による観点別学習状況の評価を行う必要がある。

イ 総合的な探究の時間の評価規準

評価規準の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、「評価の観点及びその趣旨」が各学校において定めた目標を踏まえて作成されていることを確認することが必要である。また、目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、総合的な探究の時間の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成することが必要である。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、総合的な探究の時間の目標の「学

びに向かう力、人間性」に対応するものであるが、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分をその内容として整理し、示していることを確認することが必要である。

【学校において定めた総合的な探究の時間の目標の例】

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、適切で論理的な課題の発見と解決ができるようにするために、次の資質・能力を育成する。

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに <u>気付く</u> 。	地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を <u>身に付ける</u> 。	地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする <u>態度を育てる</u> 。



【学校において定めた総合的な探究の時間における評価の観点の趣旨の例】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに <u>気付いている</u> 。	地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を <u>身に付けている</u> 。	地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとして <u>いる</u> 。

(2) 「内容のまとめり」の考え方の留意事項

各学校の総合的な探究の時間の内容は、(1)で示したように、各学校の目標を踏まえて定めるとされている。これは、学習指導要領が定める目標の趣旨を踏まえて、地域や学校、生徒の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが期待されているからである。この内容の設定に際しては、次の2つを定める必要がある。

- 「目標を実現するにふさわしい探究課題」
- 「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」

つまり、総合的な探究の時間の内容は、探究課題としてどのような対象と関わり、その探究課題の解決を通して、どのような資質・能力を育成するのかが記述されることになる。

したがって、総合的な探究の時間における「内容のまとめり」とは、総合的な探究の時間の指導と評価の全体計画に示した「目標を実現するにふさわしい探究課題」のうち、一つ一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力と考えることができる。

次に、「内容のまとめり」の例を示す。

【内容のまとまりの例（A 高等学校第2 学年）】

この表の記載内容を総合的な探究の時間の「内容のまとまり」と考える。

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
自然環境とそこに起きているグローバルな課題	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には国境を超えた多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や国内外の組織があることを理解する。 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで、正確かつ安定的に実施することができる。 持続可能な環境の実現に関する理解は、グローバルな視点で自然環境とそこに関わる多様な人々や国内外の組織との関係を探究してきたことの結果であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境への関わりを通して課題をつくり、その解決に向けて仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案することができる。 課題の解決に必要な情報を、目的に応じた手段を選択して収集し、類別して蓄積することができる。 環境問題の事実や関係を整理し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして分析することができる。 相手や目的、意図に応じて、論理的に表現し、学習活動を振り返って、学習や生活に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとする。 自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとする。 自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、持続可能な環境づくりに貢献しようとする。

これらを踏まえて、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

(3) 「内容のまとまりごとの評価規準」についての留意事項

【内容のまとまりごとの評価規準の作成例（A 高等学校第2 学年）】

内容のまとまりごとの評価規準			
探究課題	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然環境とそこに起きているグローバルな課題	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には国境を超えた多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や国内外の組織があることを理解<u>している</u>。 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで、正確かつ安定的に実施<u>している</u>。 持続可能な環境の実現に関する理解は、グローバルな視点で自然環境とそこに関わる多様な人々や国内外の組織との関係を探究してきたことの結果であることに気付い<u>ている</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境への関わりを通して課題をつくり、その解決に向けて仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案<u>している</u>。 課題の解決に必要な情報を、目的に応じた手段を選択して収集し、類別して蓄積<u>している</u>。 環境問題の事実や関係を整理し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして分析<u>している</u>。 相手や目的、意図に応じて、論理的に表現し、学習活動を振り返って、学習や生活に生か<u>している</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重し<u>ようとしている</u>。 自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決し<u>ようとしている</u>。 自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、持続可能な環境づくりに貢献し<u>ようとしている</u>。

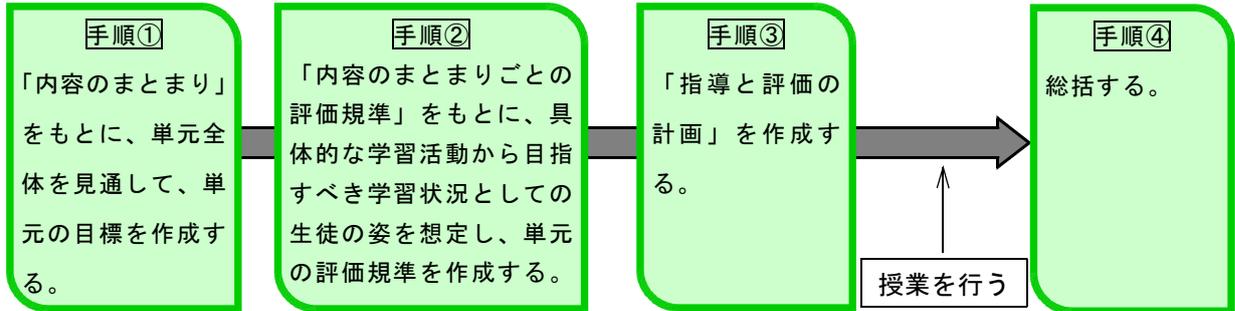
「内容のまとまり」の記載事項の文末を、「～している。」とすることにより、「内容のまとまり」に対応する評価規準を作成することが可能である。

2 育成を目指す資質・能力を明確にした単元計画の作成と評価

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた単元の評価規準の作成

単元の計画とは、「内容のまとまり」を踏まえて、教師が意図やねらいをもって作成するものである。単元の目標は、どのような学習活動を通して、生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示すものであり、「内容のまとまり」を視野に入れ、中核となる学習活動を基に設定する。

育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の目標」及び「単元の評価規準」の作成の手順のポイント、学習評価の進め方は次のとおりである。



ア 手順①

「内容のまとまり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

【例】

単 元 の 目 標	
①自分が暮らす〇〇町の20年後の予想される姿を予測する活動を通して、	②この先の自然環境は人々の生活の在り方と深く関わっていることを理解し、
③自然環境と人間生活がともに豊かになるための行動の在り方について考える	とともに、④持続可能な環境づくりに貢献しようとすることができるようにする。

- ①探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動（～を通して）
- ②単元において重視する「知識及び技能」（～について理解する）
- ③単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」（～を考える）
- ④単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」（～しようとする）

この例では、単元の目標の中に、①～④で示した4つの要素を構造的に配列し、単元の目標を作成している。それぞれ、中心となる学習対象や学習活動、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性」を意図的に入れており、②～④は、①との関わりにおいて作成する。

イ 手順②

単元の目標を踏まえ、学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり、生徒が資質・能力を身に付けた状況を表すために、目標の文末を次のように設定することが考えられる。

【単元の目標を踏まえた単元の評価規準の例】

目標の文末を「～ている」とし、生徒が資質・能力を身に付けた状況として表している。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	この先の自然環境は人々の生活の在り方と深く関わっていることを理解している。	自然環境と人間生活がともに豊かになるための行動の在り方について考えている。	持続可能な環境づくりに貢献しようとしている。

ウ 手順③

具体的な学習活動に沿って、評価場面や評価方法等を計画する。どのような評価資料をもとに評価するかを考え、その結果をもとに指導する具体的な手立てを明らかにする。単元計画は、生徒が日々取り組む学習活動の指導計画であり、1年間を通して一つの単元で構成される場合においても、複数の単元で構成される場合でも、育成を目指す資質・能力を中心に計画を立てることが大切である。次に具体例を示す。

指導と評価の計画（全35時間）（1年間を通して1つの単元で構成される例）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 地域の自然環境を理解し、持続可能な自然環境保全の在り方について考えよう。(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治山・治水や海岸の浸食など、地域の自然環境に対する問題点について自らの認識を出し合い、人間の生活の変化と深く関連していることを確認する。 ・ 持続可能な自然環境保全の実現のために必要なことについて焦点を絞って研究内容を設定し、課題の解決に向けた今後の活動への見通しや検証方法を考える。 		①		<ul style="list-style-type: none"> ・ 発言 ・ 研究計画書 ・ 研究日報
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の研究内容に照らして必要な情報を収集し、分析した結果を研究内容報告会で交流し合う。 ・ 研究内容報告会から、自然環境の変化や現状に関する課題意識を高め、研究計画書を作成する。 		②	①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究内容報告会における発表や発言 ・ 研究計画書
2 地域の自然環境の課題の解決の方策を考えよう。(15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究やアンケート調査等を踏まえて、地域の環境に関する現状の分析を行い、課題の解決方策を探る。 		③		<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境改善計画書
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政や地元の企業などと連携・協働した「地域の自然を考える会」を実施するとともに、自分たちが考案した取組の検証や改善を行う。 	②		②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察や発言 ・ データ分析資料 ・ 研究日報
3 自分たちの取組を振り返り、持続可能な自然環境保全に向けた方策について考えよう。(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究内容への取組をまとめ、得られた成果や効果についての研究発表会を企画・実施する。 	③	④		<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究発表会における発表や質疑応答 ・ 研究日報
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の研究内容に関する結論や考察について研究集録にまとめる。 	①		③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究集録

この例では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれにおいて次のように評価規準を設けている。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の自然環境の問題点には、人間の生活の変化が関わり合っていること、持続可能な自然環境の実現に向けては持続可能な取組を共に創造していくことが大切であることを理解している。 ②考案した取組の効果に関する実地調査を、相手や研究 	<ul style="list-style-type: none"> ①治山・治水や海岸の浸食など、地域の自然環境が抱える問題点について、自己の関心をもとに研究内容を設定し、検証方法を考え研究計画書を作成している。 ②地域の自然環境の現状を捉えるために、自己の研究内容に応じて、手段を選択し情報を 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の環境の実態に関して、他者の研究内容との関係で自らが設定した研究内容の特徴を捉え、向き合おうとしている。 ②行政や地元の企業などと協働して自然環境保全に取り組もうとして

規 準	<p>内容に応じた適切さで正確に実施している。</p> <p>③持続可能な地域の自然環境の実現に対する町民の意識の高まりは、自然環境の課題の解決に向けた創造的な取組について探究してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>収集したり蓄積したりしている。</p> <p>③統計や先行研究、町民を対象にした調査結果をもとに、自分たちにできる自然環境の改善に向けた取組を検討し、実施効果に着目して、取組内容を決めている。</p> <p>④持続可能な自然環境に向けた取組について、自己の取組を振り返り、学習や生活に生かしている。</p>	<p>いる。</p> <p>③持続可能な地域の自然環境の実現に向け、持続可能な自己の取組を明らかにして地域の将来社会に貢献しようとしている。</p>
--------	--	--	--

エ 手順④

総合的な探究の時間の評価結果の総括に当たっては、評価場面や単元における評価結果を総合し、「総合的な探究の時間の記録」に記述する。

【生徒に対する評価の例】

	学習活動	観 点	評 価
生 徒 A	地域の自然環境の課題解決のために	知識・技能 <u>思考・判断・表現</u> <u>主体的に学習に取り組む態度</u>	地域の自然環境の問題点の分析では、各種の統計調査や先行研究などから、自然環境の保全の重要性を理解し、 <u>科学的な根拠をもった課題解決の方策を考えた。今後も継続可能な自己の取組を明らかにして、地域の自然環境に課題意識を持ち続け、その解決に向けて貢献しようとしている。</u>

	学習活動	観 点	評 価
生 徒 B	地域の自然環境の課題解決のために	知識・技能 <u>思考・判断・表現</u> <u>主体的に学習に取り組む態度</u>	「地域の自然を考える会」では、地域の自然環境の保全の重要性を理解し、 <u>研究内容に応じて適切に実地調査を実施して分かりやすく発表した。地域の自然環境の保全のために、行政や地元の企業等と協働して持続可能な自然環境の保全活動に取り組もうとしている。</u>

	学習活動	観 点	評 価
生 徒 C	地域の自然環境の課題解決のために	知識・技能 <u>思考・判断・表現</u> <u>主体的に学習に取り組む態度</u>	「研究発表会」では、自ら実施した調査や各種統計調査を分析して検討した <u>地域の自然環境保全に関する課題の解決方策について、表現方法を工夫しながら分かりやすく発表した。今後も継続して地域の自然環境保全に取り組むため、更に研究を続けようとしている。</u>

実践事例

「総合的な探究の時間」の評価に係る実践事例について

この学校では、学校教育目標を踏まえ、総合的な探究の時間において、次のとおり目標を設定し、目標を達成するために、地域と連携・協働して探究活動を行っている。

目 標 グローバルな視点で地域の課題を捉え、地域の活性化のためのビジネスプランを作成・発表することを通して、自己の将来について具体的に考え、これからの自分自身の在り方生き方を見だし、協働して地域に貢献できるようにする。

探究活動

仮説（問い）を立てる

条件を想定する

フィールドワーク・調査

検証

上記の探究活動にそれぞれ目標を設定することで、生徒は自己評価しながら、探究活動を進めることができるように工夫している。

（抜粋）「仮説（問い）を立てる」における生徒の自己評価のめやす

<第1段階>

文献調査を行い、分からないことを整理する

<第2段階>

文献調査等の結果を踏まえ、課題を整理する

<第3段階>

課題の解決に向けて、改善策を考える

<第4段階>

課題の解決に向けた具体的な改善策の手順を整理する

教員による生徒の学習状況の評価については、診断的な評価、指導に生かすための評価及び総括としての評価の各段階において次の3つに整理して実施し、これらを基に必要な手立てを行い、指導と評価の一体化に取り組んでいる。

診断的な評価	単元の開始時点において学びの状況を診断し、学びの指針とする。 ただし、点数化や順位付けはしない。
指導に生かすための評価	探究活動の実施ごとに、ルーブリックを活用した振り返りを通して探究の進行状況やこれからの展望を整理する。
総括としての評価	全ての探究活動の終了後、最終的な到達状況について、評価場面や単元における評価結果を総合し、文章で記述する。

「思考・判断・表現」のルーブリックのイメージ

	A	B	C	D
思考	グローバルな視点から、地域の課題について、具体的に考察している	グローバルな視点から、地域の課題について、考察している	グローバルな視点で地域の課題を考察できていない	地域の課題設定が考察できていない
判断	地域の課題の解決に向けたビジネスプランを具体的に考察している	地域の課題の解決に向けたビジネスプランを考察している	地域の課題を整理している	地域の情報を収集している
表現	内容が一貫しており、聞き手の思考が促される	内容が理解でき、一貫している	内容は理解できるが、一貫していない	何を伝えたいのかが分かりにくい